

指定管理施設(総合福祉センター)事業評価表
母子・父子福祉センター事業分

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		平成26年度の実施状況		平成27年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
			回数	実施日	ねらい	H26年度	H27年度	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	
交流事業	1	夏季交流事業 (地球村野外学習お泊り会)	2	7/18.19	キャンプ、社会見学、スキー・スノボツアー、スケート、新入学お祝い会、交流サロンなどを実施し、母子、父子、寡婦が各活動を通して親同士、子ども同士、親子がふれあい交流を深め合って横のつながりを図る。	12	12	2	48	2	55	0	7	・参加児童：15名 ・内容：オリエンテーリング、工作、ごはん作り等 ・発達障害のある子の参加があり、発達支援センター職員の協力を得て対応した。 ・グループ分けをしたりゲームをしたりして、緊張気味の子どもたちが打ち解けやすい環境づくりに努めた。 ・前年参加した子がリーダーシップを発揮し、初めて参加する子に教えるなど良い仲間づくりができた。
		社会見学 (伊賀の里モクモク手づくりファーム、セントレア・めんたいパーク)	2	5/31、10/10				2	47	2	46	0	△1	①春のわくわく体験ツアー(5/31) ・行先：伊賀の里モクモク手づくりファーム(伊賀市) ・参加家族：10家族 ・内容：搾乳体験、手づくりソーセージづくり等 ・遠方で、個人ではなかなか連れて行けない所であり、26年度春より参加者が多かった。 ②秋のわくわく体験ツアー(10/10) ・行先：中部国際空港、めんたいパーク常滑(常滑市) ・参加家族：7家族 ・内容：滑走路見学等 ・滑走路の見学ということで多くの参加を見込んでいたが、春よりは少なかった。28年度はPRをもっとしていきたい。
		冬季交流事業 (スキー・スノボツアー)	1	1/24				2	59	1	43	△1	△16	・行先：駒ヶ根高原スキー場(駒ヶ根市) ・参加家族：15家族 ・個人では連れて行けないということもあり、前年に引き続いて参加される方や、広報や情報誌を見た初めて参加される方もあって、バスは満員状態だった。好評で、来年も行きたいとの声が多かった。
		新入学お祝い会	1	2/28				1	24	1	34	0	10	・会場：総合福祉センター ・参加対象児童：8人 ・内容：パネルシアター、ゲーム、プレゼント贈呈等 ・母子父子寡婦福祉会との共催 ・教育委員会や児童館・児童センター、子ども支援課など、例年チラシを置かせていただいているところや、広報、情報誌掲載に加え、今回初めて市内保育園にお願いし、対象者の家庭にチラシを配布したことなどもあり、昨年より3組多く参加があった。
		小計	6	-				小計	7	178	6	178	△1	0

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		平成26年度の実施状況		平成27年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価									
			回数	実施日	ねらい	H26年度	H27年度	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	実施回数(回)	参加延べ人数(人)										
交流事業 (続き)	2	<ひとり親家庭交流サロン>				13	13	18	115	18	306	0	191	<ひとり親家庭交流サロン> ・児童センターと共催できたものが多くあり、ひとり親家庭の子どもだけでなく大勢で楽しく開催できた。 ・クリスマス会では7組の親子が参加し、工作やお菓子作りを楽しんだ。参加者からは、こういった会があると困っていることを相談したり、普段思っていることを共感してもらえたりするので自分の支えになるなどの感想をいただいた。									
		移動母子・父子福祉センター	13	4月～3月																	<移動母子・父子福祉センター> ・27年度から全児童館・児童センターへ出向き合同で事業を行い、地域によってひとり親家庭の状況が違うことが分かった。 ・今後は保護者に直接お話しできる機会をより多くつくり、周知活動を活発に行っていきたい。		
		デイキャンプ(太平児童)	1	7/24																			
		クリスマスお楽しみ会	1	12/13																			
		寡婦交流会(寄せ植え)	1	12/14																			
		プレゼントチョコ作り(太平児童)	1	2/13																			
		<多世代交流事業>															<多世代交流事業> ・26年度よりも多くの多世代交流行事を実施し、子ども達も高齢者も顔見知りになり、より身近に感じる事ができた。子ども達がゲーム等の時などにおじいさん、おばあさんを助ける場面もたびたび見られ、ふれあいの場となった。						
		わくわくキッズクラブ手話(デイ)	20	7/21～8/21.3/28													・太平デイサービスの利用者のみなさんとは、わくわくキッズクラブで毎日手話や歌と一緒に楽しんだり、でこぼこ夏祭り、ハロウィン、節分など交流の機会を多くつくり、複合施設の特性を活かすことができた。						
		わくわくキッズクラブ交流会(障害セ)	1	8/7													・しめ縄づくりでは、寡婦会の方とも交流を図りながら親子で楽しんで作品づくりをすることができた。						
		盆踊り練習(老人・児童・デイ)	3	7/21～23																			
		でこぼこ夏祭り(児童・老人・デイ)	1	7/28																			
		デイ夏祭り(デイ・児童・障害セ)	1	8/6																			
		デイサービス交流会(デイ・児童)	2	8/18.20																			
		雑巾作り(デイ・児童)	4	8/17～20																			
		ふれあいセンター姫祭り(老人・児童・デイ)	1	8/21																			
		ハロウィンパーティー(児童・デイ)	1	10/31																			
		しめ縄作り(寡婦)	1	12/19																			
		新春お茶会(老人・児童・デイ)	1	1/5																			
		節分お楽しみ会(児童・デイ)	1	1/30																			
		小計	54	—			小計	43	1,018	56	1,633	13	615	交流サロンや多世代交流会を通し、年代の違う人とのふれあいで子ども達の成長が見られた。今後も継続すべき事業である。									
		計	60	—	—	—		50	1196	62	1811	—	—	—									

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		平成26年度の実施状況		平成27年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
			回数	実施日	ねらい	H26年度	H27年度	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	
自立促進事業	1	パソコン教室 応用	48	火曜日 夜	技能や知識を習得し、就業・資格取得につなげる。また、横のつながりを深め交流する機会を設ける。	9	9	48	283	48	257	0	△ 26	・いずれの教室も26年度よりも参加者が少なかった。参加者も寡婦と一般の方が多く、ひとり親家庭の親の就業のための教室というねらいが果たされていない現状がある。(母子1名・寡婦3名・一般12名) ・教室としての開催は27年度までで、28年度からは月曜日の夜と火曜日の夜の教室はサークルとして活動される。
		パソコン教室 基礎	24	第1・3月曜日 夜				24	146	24	135	0	△ 11	
		パソコン教室 基礎	48	木曜日 昼				48	326	48	261	0	△ 65	
		小計	120	—				小計	120	755	120	653	0	
		計	120	—	—	—	120	755	120	653	—	—		
趣味・教養講座	1	お茶・お花教室	12	第1水曜日 昼	趣味・教養の講座を開催し、技能や知識の習得をする。また、横のつながりを深め交流する機会を設ける。	11	11	12	163	12	126	0	△ 37	・講師の都合で曜日が変わったり、1カ月休みになった教室もあり、26年度よりも人数が少なくなった教室もあるが、和気あいあいとした雰囲気でも活動することができた。 ・参加者の減少が目立った子ども習字教室は、開催曜日が変わったことで他の習い事と重なったり、中学生になり部活動が忙しくなったりして、来られなくなったことが大きな要因である。教室のPR活動を行い、新規の受講者を増やしたい。 ・お茶・お花教室の受講者は、毎年多世代交流事業の新春お茶会のお手伝いをしてくださっており、今後も協力していただける。 ・子ども習字教室以外は、28年度からサークルとして活動される(ペン習字教室は老人センターの教室として引き続き行う)。自主的活動を支援するため、28年度1年間は会場の使用料は不要だが、受講料の補助はなくなるため、受講料が高くなり参加できず残念だとの声もあった。 ・子ども習字教室の他は、教室が無くなるがサークルとして活動される場所が多く、定期的に連絡を取り、できるサポートは継続する。
		書道教室	24	第1・3月曜日 昼				24	180	24	214	0	34	
		ペン習字教室	24	第1・3水曜日 昼				24	225	24	186	0	△ 39	
		布ぞうり作り教室	24	第1・3月曜日 昼				24	151	22	132	△ 2	△ 19	
		子ども習字教室	24	第1・3月曜日 夜				24	346	24	235	0	△ 111	
		ヨガでリラックス教室	24	第1・3木曜日 夜				24	120	24	143	0	23	
		サークル活動 3団体 (パソコン1・布ぞうり1・書道1)	84					84	578	72	490	△ 12	△ 88	
		小計	216	—				小計	216	1,763	202	1,526	△ 14	
		計	216	—	—	—	216	1,763	202	1,526	—	—		

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		平成26年度の実施状況		平成27年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
			回数	実施日	ねらい	H26年度	H27年度	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	
夏季育成事業	1	わくわくキッズクラブ・同窓会	21	夏休み 20日間 春休み1日	親が夏季休暇中も安心して仕事ができるように預かりを行う。また、子どもは、規則正しい生活の中で、いろいろな体験活動を行うことで健全育成を図る。	11	11	21	249	21	182	0	△ 67	<ul style="list-style-type: none"> ・27年度は7名の応募があったが、2日間の参加でやめられた方があり、実質6名の小学生児童の参加だった。 ・期間限定の指導員の確保は大変であったが、熱心に指導してくださり、少人数ながらも和気あいあいと活動できた。 ・総合福祉センターだけでなく、図書館の普段入れない場所の見学やバス、電車に乗って外出する活動も好評だった。 ・昼食やおやつを自分たちで作る事により嫌いなものも少しだけ食べられるようになった参加者もいた。 ・放課後児童クラブが充実してきており、年々参加者が少なくなってきた。放課後児童クラブと比べて受け入れ時間が短いことや、土曜日とお盆期間の受け入れがないこと、また福祉センターまでの送迎もネックになっているのではないかと考えられる。時代の流れに合ったサービスを提供していけるよう、検討していきたい。
		小計	21	—		小計		21	249	21	182	0	△ 67	
		計	21	—	—	—	21	249	21	182	—	—	—	
相談業務	1	子育て相談	6	随時	ひとり親家庭の自立生活を手助けする。	10	10	6	6	0	0	△ 6	△ 6	<ul style="list-style-type: none"> <相談の内容> ・母の資格取得のための貸付について ・高額医療について ・子どもの進学資金の貸付について ・父子家庭の父親の姉からの相談で、弟の家庭の生活について 貸付の相談は、いずれも一定の収入があり市の貸付には対象にならず、県社協の生活福祉基金を借りられるか、地域福祉課と連携して支援を行った。
		生活一般相談	0	随時				0	0	4	5	4	5	
		小計	6	—		小計		6	6	4	5	△ 2	△ 1	
		計	6	—		—	—	6	6	4	5	—	—	
自立支援・父 子家庭の 情報提供	1	情報提供	5	随時	適職に就くための資格・技能取得を目指すひとり親を支援する制度を周知する。	10	10	5	5	3	3	△ 2	△ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・件数は減少したが、個々の相談に応じて適切な情報提供を行うことができた。 ・3件とも対象者の方から何か情報を教えてほしいという話があり、情報提供を行った。
		小計	5	—	小計		5	5	3	3	△ 2	△ 2		
		計	5	—	—	—	5	5	3	3	—	—		

(留意事項) ※「区分欄」は、指定管理者の協定書・仕様書で定められた事業は「1」、協定書等がない自主事業は「2」を記入。